

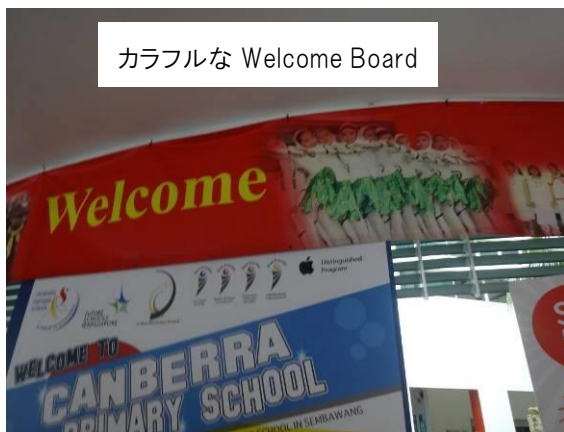
# 自信が学力向上の『かぎ』 ～シンガポール学校事情から～

シンガポール事務所

資源が乏しく、国土の小さいシンガポールでは、建国以来「人材こそ最大の資源」という国家観に基づいた教育制度を推し進めてきました。一方で学力偏重の反省から、生徒の自主性や表現力を育成する方向へとシフトしつつある様子も垣間見えます。

このたび、東京都世田谷区の教育交流調査への活動支援でシンガポールの公立学校および私立学校を訪れる機会がありましたので、その様子を紹介します。

## 1 地域に根差した人気小学校・・・Canberra Primary School



カラフルな Welcome Board

中心地から車で北へ 30 分ほど走ると、巨大な公団（HDB）に囲まれた住宅街に、ひと目立つカラフルな配色の学校が見えてきます。それがキャンベラ小学校です。2000年に設立され、7歳から12歳までの児童1500人、48クラス、教員数約115人（副教師含む）で構成されています。児童の大半は学校から1km圏内に住み、徒歩で通学している地域に密着した学校の

ひとつです。

Mr. Wong は教育に全エネルギーを注ぐパワーにあふれたアイデア校長で、「児童にとってベストな環境を提供する」という理念を実践し、教育だけでなく学校運営に関しても数々の賞を受賞してきました。

○キャンベラ小学校のカリキュラムの特色

### ・ミュージカルシアター教育

全校児童参加の自作自演のミュージカルを通して国際感覚・表現力・言語力を学ぶ

### ・統合教育カリキュラム教育

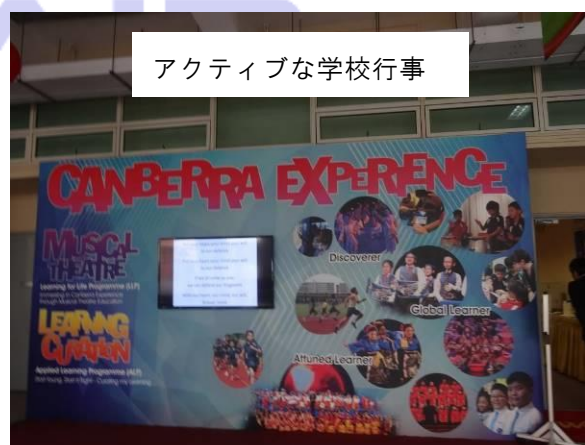
児童ひとりひとりの能力、ニーズに合った活動および教育を実施する

### ・IT教育

「Start Young, Learn IT Right」早期から正しいIT学習を学ぶ

○1対1の教育で能力を最大限に生かす

キャンベラ小学校では、児童の学力に弱点があれば退職校長等が支援をし、逆に能力に秀でた児童があれば専門の講師を付けるなど、児童1人に対し、教員1人という体制で児



アクティブな学校行事

童の能力を見出し、それを最大限に伸ばす教育を実施しています。「どんな児童でも、必ず素晴らしい能力があります。その能力を伸ばしてあげることで、彼らは自信がつき、結果的に学力向上につながるのです。」と Wong 校長は私たちに力強く理念を語りました。

学校と同じように明るく活気に満ちた生徒や教員の笑顔の中に、地域の人々に愛され、かつレベルの高い人気校の秘密を見出すことができました。

## 2. 中国文化を継承するシンガポールの SAP 学校・・・Nan Hua High School

ナンファー高等学校は、13 歳から 18 歳までの生徒 1570 人、44 クラス、教職員 164 人（教科主任、事務職員含む。）を有し、シンガポールで 10 校ある SAP (Special Assisted Plan) school のひとつです。多様な民族を統合するため英語教育を推進してきたシンガポールにあって、元来、中華系民族が 1917 年に設立した学校でありながら、英語と中国語の両方の文化を大切にする伝統があり、1989 年にはシンガポールの国立校になりました。



学校の外観

入学条件の一つに母語が中国語であることが求められるため生徒の大半は中華系です。校内いたるところに中国と英語の 2 か国語表記がされ、中国文化を大切にしつつバイリンガル教育が推進されている様子が伺えます。

### ○忠 孝 仁 愛 禮（礼） 義 康 耻（恥）の教育モットー



8つの教育モットー

校内には、学校のモットーである 8 つの文字が漢字で書かれてあり、孔子の教え（儒教）を忠実に実施している様子が伺えます。

### ○特徴的な入学と卒業の儀式

学校の特徴のひとつとして孔子の教えをもとにした入学と卒業の儀式があります。新入生は門から入学し「この学校で孔子の思想を学びます。」という信念で入学の決意をかみしめ、卒業時には門から出て行き「この学校

でその思想を学びました。」という自信を持って卒業していくそうです。私はこの話を聞いて、日本の修行僧が寺で修業をする時の儀式に似ていると感じました。

シンガポールの進学校の一つでありながら、社会奉仕活動にも力を注ぎ、世界で活躍できる自立したリーダーの育成を目指すナンファ高等学校は、今後もトップ校として、また多文化社会のシンガポールで中華文化を継承する要としての地位を守り続けるだろうと実感しました。



### 3. IT 教育を活用したフューチャースクール・・・Beacon Primary School

ビーコン小学校はシンガポールの国策プログラム「未来の学校プロジェクト～Future Schools Project」の導入により 2008 年にフューチャースクールとして設立されました。フューチャースクールとは、ICT ツールを活用した先進的な学習を行う学校教育のことを指します。人材育成に力を注ぐシンガポールの教育政策の中で、教育の ICT (Information and Communication Technology) 政策は英国、韓国と並んで先進国であり、日本からも国の視察団や教育研究者、現場教師たちがこの学校に多く視察に訪れています。



パソコンで物語を作っている様子

ビーコン小学校は、教育省の厳しい基準に合格した最初のフューチャースクールに認定された 8 校のひとつであり、学校の歴史は ICT 教育とともに歩んできたと言えます。

#### ○フューチャースクールとしての誇り

ビーコン小学校は、中心地から車で 20 分ほど北西に進んだ住宅地の中にあります。児童 1400 人、42 クラス、教職員 109 人（事務職員含む）で、教職員の中に専任の ICT 専門員がいることが特徴のひとつに挙げられます。また、フューチャースクールとして、教師自身が常に事業実践のふり返り、検証、そして、学校側も、ICT 教育を支える人材、システム、資源などの枠組み等、ICT を活用しやすい学習空間の整備などを研究しています。また、1 人 1 台コンピュータが使える環境を整備し、低学年がキーボードを打たなくても文字が使えるタブレット PC を使った共同学習によるデジタル・ストーリーテリングなど、特色ある実践を進めています

#### ○まるでテレビ局のようなスタジオ設備



ICT を効果的に活用した授業実践研究のひとつに生徒が作った物語を映像を通してビジュアル化するカリキュラムがあります。先生が読み聞かせた物語の内容をヒントに児童達はオリジナルの物語を作り上げます。物語を作る過程で、児童が内容をパソコンに打ち込んだり、シナリオを発表する練習をするにあたり、先生はパソコンの画面を通してスペルの修正や、正しい発音の方法などに瞬時に対応しているそうです。最後に、出来上がった物語に合わせて絵を描き、世界にひとつだけの生徒オリジナルの作品ができあがります。低学年の子どもたちが、ここまでパソコンを駆使し物語を作り上げるだけでも驚きですが、ビーコン小学校の注目すべき点は、児童が自分の物語の中で生き生きと活動する様子を

ICT 技術により映像化して見る事ができるように教育している事です。このカリキュラムを通して、児童に語学力、発表力、想像力を合わせて学ばせ、また客観的に自分の姿を見ることにより、表現する喜びと大きな自信を持たせることが重要な教育目的とのことです。

#### 4. 私立の優良校・・・Anglo-Chinese School (Independent)



学校の外観

最後に、小中高一貫の私立学校であるアングロチャイニーズ学校を訪問しました。この学校は 1886 年創立、今年で 130 周年を迎える歴史あるシンガポールの名門進学校のひとつで、卒業生には大統領や政財界のトップを輩出しています。13 歳から 18 歳までの生徒 2800 人（10 年生（16 歳の学年）までは男子のみ）、44 クラス、教員数 260 人を有し、シンガポール国立大学に近い閑静な

住宅街の中に位置しています。

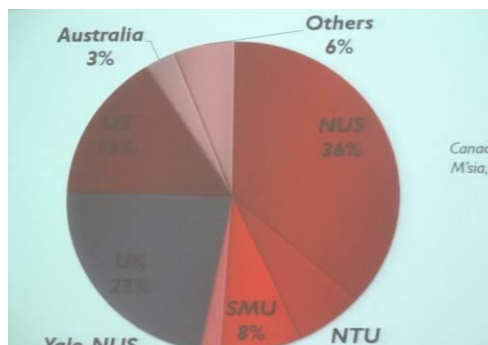
「私たちができることを実施し、人に貢献する」という、人を尊敬し、モラルの育成を重視した教育方針をとっています。

生徒のみならず、保護者も地域貢献や寄付活動に積極的に参加しており、先日も献血を呼び掛けたところ、一瞬にして 170 パック（シンガポールで 1 年間に集まる量の半分に相当する献血量）の記録を打ち立てたとのことです。

##### ○高い進学率

シンガポール国立大学への進学率は約 3 割（2014 年度）ですが生徒の進学先は、シンガポール国内を除くと英国ではケンブリッジ、オックスフォード、インペリアルカレッジ、ロンドンスクールオブエコノミクス、米国ではペンシルベニア大学、コロンビア大学、コーネル大学、UCLA、ニューヨーク大学など、英米のトップ大学への進学で輝かしい実績を築いています。

- シンガポール国立大学 36%
- 他のシンガポール大学 15%
- 英国の大学 22%
- 米国の大学 15%



世界各国のトップ校への高い進学率

##### ○リーダーシップ教育

キリスト教コミュニティの中で「未来のリーダーと世界市民の育成」を図ることを理念

に、学業を重視するだけでなく、幅広いリーダーシップを育むプログラムを展開しています。シンガポール国内はもとより、アジア諸国・欧州やアフリカなど世界各地で年間 20 以上の慈善活動や研修旅行が実施され、リーダーシップを鍛錬するプログラムは大小あわせて 200 種類提供されています。そのため、国際的な将来のネットワーク作りのために、進学希望者が急増しているとのことでした。

#### ○オリンピック競技場のような施設

理系だけでなく文系・芸術系やスポーツをバランスよく伸ばすための全人教育に注力しているため、自由に選択できる 50 の課外活動があります。

オリンピックサイズのプールや体育館、さまざまなスポーツのコートはもちろん、充実したコンピュータ設備や実験室等が多数あります。



また、学校に隣接して学生寮があり「ACS Oldham Hall」と呼ばれ、開設以来 100 年以上の歴史と伝統を誇っています。生徒だけでなく、学習室や教員用の部屋もあり、生徒たちは時間に関係なく自由に学習したり、先生に質問したりできる環境にあります。

## 5. 教育が人生を作り、国を創る

小さな都市国家であるシンガポールでは、人材育成にも最大限の効率性が求められ、また、初等教育終了後の能力別試験など激しい競争で知られています。実際にローカル校を訪問するまでは、私は、学校訪問をする前は、競争で疲れ切った生徒たちの姿や、硬い表情を思い浮かべていました。しかし、訪問した 4 つの学校とも緑にあふれ、色彩が明るく、何よりも生徒や教員たちが自信と明るい笑顔に満ちあふれていたことが大きな驚きでした。

シンガポールの教育現場では、知識や道具を教員から一方的に伝える一方通行の教育ではなく、教師が生徒一人一人の能力を見極め、個々に合った教育を行うことに力が注がれています。また、それを伸ばす学校の取組を評価し、政府は必要に応じて予算や人材を補助しています。

「21 世紀を生きる力ための様々な能力を開化し育成する」教育方針に、シンガポールが国際社会でますます輝き続ける明るい未来が見えたような気がしました。

(堀江所長補佐 栃木県小山市派遣)